

平成28年度第2回南牧村総合教育会議

議事日程

平成28年11月18日（金）午後2時58分開会

- 1 開会
- 2 村長あいさつ
- 3 議事
 - 1) 学校づくり委員会の進行状況について
 - 2) 全国学力・学習状況調査結果について
 - 3) 自由討議
- 4 閉会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

南牧村総合教育会議出席者

村 長 大村公之助

教育長職務代理者 渡邊壽美

教育委員 高見澤ふみ子

教 育 長 井出英夫

教育委員 井出邦彦

教育委員 高見澤みち子

事務局職員出席者

総 務 課 長 津金昇三

総務課企画係長 井出 聡

教育委員会教育次長 井出浩美

教育委員会学校教育係長 井出一生

開会 午後2時58分

◎開会の宣言

○津金総務課長

それでは、定刻より若干早いですけれども、皆様お揃いでございますので、ただ今より平成28年度第2回南牧村総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、村長よりごあいさつ申し上げます。

◎村長あいさつ

○大村村長 一段と秋も深まりまして、朝晩の寒さも身に沁みる頃になってきたわけですが、何かとまだ秋の採り入れなどがあって忙しい中、今日は教育委員の皆様にお越しいただきまして、第2回目の南牧村総合教育会議ということで大変ご苦労様です。また、先般、今日ご出席いただいております高見澤ふみ子さん、高見澤みち子さんに教育委員さんをお願いしたところ、快く承諾いただきまして誠にありがとうございます。今後ともよろしく申し上げます。

さて、村の将来を担う子ども達を健やかに育てる教育施策については、教育委員の皆様をはじめ、教育委員会総力をあげて様々な課題に取り組んでいただいております。村の大事な宝でもあります子ども達を育てるといふ、大きな目標に向かってご尽力をいただき改めてお礼を申し上げます。

また、このところの教職員の不祥事が目につくわけですが、子どもたちの心に計り知れない影響があるものと思っています。教育委員会におかれては、先生方のさらなる倫理意識向上、あるいは校長先生を通じてご指導されることをお願いしたいと思います。

また、少子化という社会現象は、我が国の経済活動から地域社会への影響、学校の姿などあらゆるところに影響が及びます。村としましても、少しでも人口が増加するように、子育て支援や婚活支援など積極的に行い人口増加を図っていますけれども、なかなか厳しい現状でございます。

本日の総合教育会議においても、議題にあります以外にも現状の教育について学校の状況、課題や悩みなどを皆様にご発言いただき、今後の施策に役立てていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。本日は大変ご苦労様です。

◎議事

○津金総務課長 それでは、続きまして議事に入らせていただきます。議事につきま

しては、事務局の方で進行させていただくということでもよろしくお願いいたします。それでは、学校づくり委員会の進行状況について、教育長から説明をお願いします。

○井出教育長 はい。それでは、現在、村長からの諮問に応じてやっています学校づくり委員会の進行状況について、教育次長から説明をさせていただきます。

○井出教育次長 はい。お手元の資料にA4の紙一枚の学校づくり委員会の開催実績・予定という資料をご覧いただきたいと思います。5月30日第1回の学校づくり委員会が発足しました。その後、学校づくり委員会の本会として第6回が11月7日まで開催しております。内容につきましてはご覧のとおりでございますが、第2回において現状の教育課題の確認と、それから新しく制度化されました小中一貫制度の概論から制度についての学びを始めました。第3回には佐久穂町の小中学校へ議会と合同で視察を行い、9月2日にも信濃町へ視察に行きました。第4回の9月12日には県の教育委員会の講演がございましてこちらでも議会と合同で行いました。第5回、第6回と会議を重ねております。また、教育専門部会を別に発足いたしまして、第1回を6月8日、以降4回まで開催をしております。教育専門部会では、まず、学校現場に携わる者としての現状、それから今後さらに少子化が進む中での課題について検討し、これからの望ましい教育環境の実現に向けてということで教育ビジョンの試案の検討を行いました。また、この試案については10月11日の第5回の本委員会において部会報告ということで報告を致しました。これについては後ほど簡単に触れさせていただきます。

これからの予定であります。第7回以降の記載はございません。まだ確定していないわけですが、第7回の開催日を11月21日の午後7時からということで予定しています。今後の内容ですが、本日このあと学校づくり委員会の委員長を含め懇談会がありますが、そちらの報告やPTA会長他から保護者の意見を聞くということでアンケートについての提案がされていますので、そちらについて検討されるものと思っております。アンケートを実施するとなると若干答申まで遅れるわけですが、平成29年1月中には何とか答申書が出せるのではないかと状況と考えています。

では、お手元に別冊で「望ましい教育環境の実現に向けて」というものをお配りしてございますのでご覧いただきたいと思います。これは全部説明していますと時間が大変かかってしまいますので、これからの現状の課題を踏まえて教育委員会並びに教育専門部会ではこれからの南牧村のあるべき学校の姿ということで検討しまとめたものでございます。1ページから9ページまでは学校のあり方Q&A集ということで、どういうことが課題になっているかというようなことをわかりやすくまとめたものであります。最後の17ページにまとめがございまして、読ませていただきますと、単に少子化に対応するためだけでなく少子化を肯定的に捉え、ということで今後さらに進むであろう少子化を肯定的に捉えて、将来に夢と希望のある南牧村の子育てと教

育を実現していくことが最大の目標でございます。地域の子どもは地域で育てる村を創生するというテーマもございまして言われています。これから教育行政、地域に課せられた重大なテーマだと思っています。いずれにしましても、この教育目標を作成しましたので、こちらを実現するための学校の望ましい教育環境の実現ということで今後さらに学校づくり委員会で検討し実現を図っていくものと考えております。以上です。

○津金総務課長 それでは、ただいま教育次長より説明があったわけでございますけれども、これに対して皆さんからご意見、ご質問がございましたらよろしく願います。

○大村村長 学校づくりの関係では過去にも何度かこういう形でやっているわけで、特に教育長職務代理者をはじめ委員の皆様にはいつもこの問題で頭を悩ませてもらってしまっていて、過去には統合問題も出て結果的に実現できなかったというしこりも残っている中で、新たに学校づくり委員会の委員さんにはご努力いただいて、答申（案）や学校のあり方Q&A集ができたという点では、皆さんがやってきたことを高く評価したいと思います。これに基づいて今後なお一層、村民の声を聞きながら進めていってほしいと思いますし、来年1月の答申に向けてぜひとも頑張っていたいただきたいと思います。

○井出教育長 今、村長から1月ごろという話も出たわけですが、次長の説明にもあったとおり、この次の学校づくり委員会の中でPTAの意見を聞いてくれというような声が出てくると、調査もしなければいけないのかなとも思いますので、そうすると少し村長への答申の時期もずれ込むかなと思っておりますが、何とか年度内には答申したいなという予定です。

○大村村長 年度内ということであれば2月、3月とまだ時間はあるし、いずれにしても慎重にやっていただきたいと思います。

○津金総務課長 それでは最初の議題であります学校づくり委員会の進行状況につきましては、みなさんよろしいでしょうか。ご意見、ご質問なければ次に進ませていただきたいと思います。

◎議事

○津金総務課長 それでは、次の議題でございますけれども、全国学力・学習状況調査の結果についてということで事務局から説明させていただきます。

○井出教育長 それでは、全国学力・学習状況調査は全国一斉に行われているものですが、小学6年生、中学3年生に行っております。実は南牧村の教育委員会では各学校の点数などにつきましては公表しておりません。学校数も児童数も小さいので個人が分かるような環境なので詳細の点数の発表は控えさせていただいているとこ

ろでございます。そんな中で、今年の結果などについて概要をご説明させていただきたいと思っております。

テストにつきましては、A問題とB問題とございまして、A問題は主に知識に関する問題、B問題は主に活用に関する問題ということで、全国の傾向を見ましても南牧村もそうですが、B問題の方がどうしても点数が低くなっていくところがございます。合わせて学校運営に関する部分については点数以外に学校へのアンケートも行っております。教職員の取り組み、あるいは学力向上に向けた取り組み等々についてどうなのかということで、かなりの項目の調査を行っております。

それから、児童・生徒へも生活習慣あるいは諸々の規範意識、算数・国語の試験への関心度などを個々に調査しているところでございます。まず、全体を申し上げますと昨年は理科がありましたが無かったのですが、小学校については全体的に底上げができてきています。それから中学校についても昨年度と同様の成績を残しておきまして、全般には県レベルと比べても良い成績を残しております。ただ、県全体の課題として見えるのが、小学校ではなからの成績を修めていて中学校ではその成績が伸ばせないという大きな課題が県下全部の傾向として言われています。

今年小学校、中学校それぞれの試験の結果ですけれども、小学校については両小学校34人中32人が受けていて、中学校については37人中33人でございます。特に中学校では無回答という答案用紙は無かったということで、学校の評価の中では懸命に解答に取り組んでいる姿勢が伺えているということです。グラフを見ていただければ分かるかと思いますが、それぞれ特徴のある数字が出てきております。各学校につきましてはこの分析を基にこれからの取り組みを行うということで、先日、各校長との面談の中でそれぞれの学校の取り組みをお願いしたところでございます。まず、小学校ですけれども、活用する力、これが欠けている面が多く見られるということで、この活用問題を課題として行いたいということでございます。そして、チャレンジ問題集あるいはこれから冬にかけて合同ドリルに取り組んでいきたいという意向でございます。特に北小では合同ドリルが今年2年目ということで取り組んでいくようでございます。中学校につきましては、家庭教育、ご家庭での教育の充実を図りたいということで、この秋以降、これを重点的に取り組むということでございます。もう一つ、中学校では指導力向上を図るため、各教科の合同教科会を持つという形をとっております。これは県から一人、小海中学校に加配の先生が来ていまして、その先生がコーディネーターになりまして、小海中、南牧中、川上中合同で三校合同教科会を持つという形をとっております。また、どうしても小規模校ですので南牧中学校だけですと教科会をしても一人もしくは二人になってしまいますということで、複数の先生が関わることで教科の指導方針の共有化、あるいはテスト内容についても偏りがない問題が出せるように研究をしているところでございます。これも今年2年目に入ってきております。

子どもたちの状況についてですが、これは長野県内との比較をさせていただいているわけですが、子どもたちの学習習慣、あるいは生活習慣等々につきまして平均よりかなり良い回答が、子どもたちのアンケートからは出ているところが見えるかと思えます。ただ、課題として、先生方の取り組みだとか、あるいは地域の人材の活用など、ここら辺が学校によってはかなり少ないところがあるかと思っております。いずれにしましても、校長と教育委員会の話をしながらこの学力調査の結果を見てですね、将来に向けてやっていきたいと思っております。今年の学力・学習状況調査については以上でございます。

○大村村長 円の内側の線が標準というか平均ということですか。

○井出教育長 県平均です。

○大村村長 問題によってかなりバラつきがあるようだけれども…

○井出教育長 その時の問題によっても違うと思いますし、その時の子どもたちの学力によっても違いますけれども、点数だけ見ると27年度と比べてもそれほど大きな変化はないかなと思います。いずれこれは先生も含めて今までの教え方がどうだったのか参考にしなさいという調査でございますので、これがそっくりそのままその学校の学力全部とは取られない、2教科だけしてやっておりませんのでそこはご理解いただきたいと思えます。ですから、点数を公表する教育委員会もありますけれども、南牧村みたいに小規模の所は点数の公表は差し控えていただいております。

○大村村長 全体的に見れば県の平均より上に達しているということで、それほど問題を指摘するところはないということですかね。

○井出教育長 ただ、さきほど言いましたように、それを応用するという、それと子どもたちのアンケートを見てもらうと、関心度の違いといったところも出てきますので、先生方はこういう所を見ながら授業の進め方、あるいは取りかかりというようなところを授業の中に生かしていくということになるかと思えます。

○大村村長 中学校を見ると「地域の人材・施設の活用」とあるけど、これはもう少し地域の高齢者のみなさんが培った経験や持っているいい部分を子どもに教えていただければありがたいけれどね。

○井出教育長 今、村長が言われたところは、学校にアンケートを取った結果です。これは「地域の人材・施設の活用」というところはいずれも低い数値になっていますけれども、今年もこれからになります、コミュニティスクールの推進ということでこれから進めていきますので、おいおいここら辺が地域のみなさんに関わっていただけたらともっと積極的に取り組んでいくと思えます。

○大村村長 他市町村では地域で取り組んでいるところがあると思うけど、みなさんにはいろいろご検討いただきたいと思えます。

○井出教育長 南牧村にも結構いらっしゃると思うんですね。この学力調査の関係ということなんですけども、さきほどから何度も言ったように全部の点数を公表してい

るわけではございませんので、いずれにしてもこれは学校現場ではそれぞれ評価シートでいろいろな分析をしているところでございますので、ぜひ、これを子どもたちにフィードバックするように学校にはお願いしているところです。

○井出委員 素朴な質問ですが、集計値が出て公表していないけど、受けた子どもは個人個人の点数を伝えているのでしょうか。

○井出教育長 一切していません。

○井出委員 家庭にも全然？

○井出教育長 家庭には学級通信で非常に大雑把な連絡しか出していません。

○井出委員 では、自分が何点取ったかなんてことは全然わからないだね。

○井出教育長 はい。学校の中のテストとは違って、違う目的で作っているのも意味が全然違います。だから、子どもたちにはどうだったということはしていません。それと、余談ですが、実はこの資料、分析されてものすごい膨大な量がきてます。また、問題ごとに設問の中で話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、そこら辺についても問題の中で分かれてまして、今度はこの学校はどうだったのかという分析も全部されていますので、だから活用の仕方によっては大変なことになると思います。学校は多分これを先生の方に活用できる状態にしてお渡ししているはずですよ。

○井出委員 結局、教育現場に一番使ってもらいたいということですよ。

○井出教育長 そうですね。あと、みなさんにお示しできないところがあるんですけど実は解答率がどの辺に子どもたちがいるのかというグラフまで全部出てきますので、南牧の小学校の場合は、全国平均より上のクラスのところ解答数のピークがきているというパターンになっていて、それで全体を押し上げているかもしれません。極端な例を言いますと、例えば、100人いて100人が平均値のところ答えるととても良い数字になるんですけども、そんな学習集団というのは有り得ませんので、大体ばらけますよね。本当は、0点のところから100点まで真ん中が高くなって両端に向かって低くなるのが標準というか一番当たり前のパターンだと思うんですけども、それはその年によってまちまちで違ってきます。長野県の例を言いますと、平均点よりちょっと下のところがピークになっています。ですから、長野県は全体的に全国からみると若干下回っているというところですよ。もう一つ言いますと、満額解答近い、最高点の方へ行くと分布が極端に落ちています。ということは、満額解答近くまでいく子どもたちというのは全国の数より長野県はちょっと落ちているというところですよ。南牧村の学校も出ているのですが、これを示しますと児童数が少ないから大体分かっちゃうので、この資料だけはお出しすることができません。

○渡邊教育長職務代理者 この地域の人材活用・施設活用という面で北小と南小で差がありまして、これがどういう側面があるのか分かりませんが、小海町あたりは結構地域の人たちが小学校に入っているみたいですね。それで、これだけの差が出てくるというのはどういうことかな、と思うんですけどね。

- 井出教育長 このアンケートの項目が、例えば、「地域の人材・施設を活用していますか」、「イエス、ノー」ではないんです。そこらに合致する項目を見てもらうと20項目くらいあるんですよ。「学校評議員制度を導入していますか」とか「グラウンドデザインをどう描いていますか」とか、確か20項目、もうちょっとあったと思います。それが入ってくるので、その取り組みに対して満額回答したところは高くなるし、うちはここやってないねってなれば低くなるのではないかと思います。
- 渡邊教育長職務代理者 そういうことですか。
- 大村村長 だけど、これは中学校のアンケートでもそういったところが出ているわな。関心があるのかないのかは別問題として。
- 井出教育長 そうですね。学校づくり委員会の中でやっている教育ビジョンでも地域のみなさんが積極的に関わってほしいと言っているところもあるので、これからはやっぱりそこら辺を何とか学校の方に目を向けてもらって、足を運んでもらってという方向になってくるかと思います。
- 井出委員 家庭学習、学力向上に向けた取組・指導方法の辺りは特に中学は低いですね。この間、みち子委員が言われましたけど、参観日の時、最近中学でやり始めたことね。その感想についてはいいですけど、どんなことか話してもらえますか。
- 高見澤みち子委員 先週あたりだと思うんですけど、来週の24、25日が期末テストなんですけど、そこまでに向けて11月のカレンダーみたいな表がきて、「テストがんばり表」とかいう、おうちの方のサイン欄みたいなものがあってですね、小学生用ですか？みたいな、これだけ今日がんばったのでおうちの人も毎日サインしてください、というようなものがきました。
- 井出教育長 中学生に？
- 高見澤みち子委員 中学1年生から3年生まで。
- 井出教育長 そうですか…
- 大村村長 まあ、だから、家庭でも地域でも子どもへの関心を持ってもらいたいだよな。だけど、学校の勉強に関しては平均的に素晴らしいものがあると、それぞれに。ただ、統合問題もそうだけど、地域といかに学校が密接に関わるかというのは自分の子どもが小学校、中学校にいる内はみなさんものすごく関心があって、いろいろな事に興味を持って様々な提言もしてくれるんだけど、卒業した途端にもうおそらく学校のことなんか見向きもしないと。いい例が、通学路だけど、自分の子どもが一生懸命通っている間は草刈りしたり、蔓切ったりするんだけど、もう卒業した時点で、自分がそこ使うとしても鎌一つ持たないような状況がね、どこでも同じようなことはあるだろうけど、自分の子どもが卒業した後も、死ぬまでとは言わないけどなるべくいつまでも関心を持ってもらうと、学校づくりは地域づくりじゃないけどやりやすいよね、そういう意味では。
- 井出教育長 私たちも学校も合わせて、もっと地域に向けて、という方向にこれから

していかないといけないと思います。

- 大村村長 あとは、みなさん一人一人から意見を出してもらわないと…
- 渡邊教育長職務代理者 統合については立ち会ったことがあるんですけども、本当に自分の子どもが学校終わっちゃうと真剣に考えることが無くなってしまおうし、学校づくり委員会でも話し合っているんですけど、保育園とか小学校低学年の人たちは真剣に考えていると思うんだよね。これが中学終わるような保護者はまた全然違う。それから、子どもはもう卒業して学校とは関係なくなった人ではまた違ってくる。だから子どもをどうやって教育していったらいいか、子どもを中心に考えていく必要があると思う。そうすると、地域の人たちが学校に関心を持つというのもそこから始まってくると思う。だから、これからの学校づくりの方向も子どもを中心に考えてほしいということを強く目標に掲げていってもらいたいと思います。
- 井出委員 昔は祖父母がいて、両親がいて、自分がいて三世代同居の家族って多かったじゃないですか。今は若い人だけ別に家を建てたりして核家族になってきているから、今の小学生、中学生が年配の人と一緒に生活する状況が昔よりかなり少なくなっている。この間敬老会があったんですけど、敬老者の中にも一人一人見るといろいろ子どもにこんなこと教えてほしいな、というようなおじいさん、おばあさんもいますし、その点では学校がもっともっとコミュニティスクールを充実させて、そういう人材をお願いしてやるのも子どもの教育になりますし、今年も中学の南牧祭を見たんですけど、あれをもっと一般公開して、自分の家に孫がいなくても子どもがいなくても一般の人が学校に入って見れるような、文化祭だけでなく極端なこと言えば授業参観もできるような状況を作っていけば、学校に関心を持つ人がもっと増えてくるのではないかなと思いますけどね。実際、今、学校づくり委員会をやっていて、学校を何とかしなきゃいけないというのは委員さんだけではなく、他の一般村民の方も前に一回失敗した時よりもかなり関心を持っている人数はたくさんいると思います。だから、そういうのも含めてうまくやっていけばいいかと思います。
- 大村村長 我々は団塊の世代で、同級生だけで100人以上いて、その時は親も祖父母も別に学校に関心持たなくても、父兄がそれだけいる訳だからどうってことはなかった。今これだけ激減すると父兄も少なくなっちゃって、我々の時と同じようにあまり関心持たなくなっちゃうと、30人か40人のみなさんしか関心がなくなっちゃうと村が成り立たないわけで、そういう面では時代というか背景が違うから、今の時代になるとみんなに関心を持ってもらうことがこれからは必要になるんだろうけど、昔はそれなりにうるさいおじいさんやおばあさんがいて怒られたりしたけど、今はそういう人もいなくなっちゃったからね。
- 高見澤みち子委員 私は中学1年と3年の子どもがいて中学校に通っているのですが、どうしても中学校に関心がいくんですけど、このチャート見ると、「学力向上に向けた取組・指導方法」というところがへこんでいるじゃないですか。ここ何年か中学校に

対して思っていることがそのまま出ているんですけど、先生方がどこを向いているのか感じられないんです。家庭学習にしる、冬休みとか春休みとか宿題の量がものすごく多いんですよ。これ本当にやりようがあるのかなっていう、やり終わらないことはないんでしょうけど、本当に毎日朝から晩までずっとやって、やっと終わるような量で、果たしてそれが身につくのかなっていう、5教科なら5教科全部宿題出るんですけど、先生たち同士で相談して適正量というかそういうのも考えてくれているのかなと思うんですけど。中2の冬休みの時ですかね、その時が一番すごく多かった気がします。それで休み明けの期末テスト、すごく平均点が下がったんですよ。私は宿題が多すぎていやになっちゃったんじゃないかって、子どもにも言っちゃったんですけど、なんとなく私が感じるのは全て家庭に丸投げで、平均点がその年によって違うと思うんですけど、今の中3は割と平均点が低いと思うんですよ。多分、昨年もちよっと低かったと思うんですけど、その上も低かったんだよね。私、高3にも娘がいるんですけど、その時はできる子が多かったので平均点が高かったと思うんですけどその時は先生もすごくいい先生がいたなって印象があります。もうちょっと学校として学力アップに向けて先生たちは本当にやってくれているのかなっていう。ただ宿題を出せばいいじゃなくて、授業でも何を言っているかわからないという話もよく聞くので、先生たちも授業の仕方とかちょっと考えてほしいなと思います。

○大村村長 非常にいい話だね。確かに年代によって成績が良かったり悪かったりするんだけど、波があるっていうのはおかしいと言えばおかしいんだよ。同じ人間が同じ職場で同じものを教えるんだけど、まあそこに何かあるんだろうな、教え方というか熱意というか。貴重な意見だね。

○高見澤ふみ子委員 私は教育を語るのは大切だと思うんですけど、村長がいろいろな出会いの機会を作っていただいて、そこからちょっと考えていかないとまずいかなということがあったんですけど、うちの孫が3人いるんですけど、同級生があまりいないんですよ。だから、遊べと言っても遊ぶ友達がいないんですよ。だから、保育園行くと友達がいるけど近所じゃ遊べないから結局籠っっちゃうようになっちゃって、だから村長がいろいろな出会いを作っていただいてすごくいいなあとは見えていたんですけど…。昔は世話してくれる人とかいたんですけど、今はそういう人がいなくて、自分で見つけてきた人はいいんですけど、出会いのない人は自分で見つけられないと結局だんだん年を重ねていくことが多いように思うので、そういう出会いを周りの人が作ってくれる機会があればいいなってすごく思います。昔、おじいちゃんたちも結婚相談員やってたんですけど、なかなかうまくいなくて、レタスクラブとかやってたんですけど、やっぱりそういう出会いを最初に作っていただいてから子どもをいっぱい産んでもらって、やっぱり大勢いないと一人や二人だと…って孫たちを見てそう思いました。以上です。

○大村村長 深刻なんですよ。だから、子ども同士もそうだけど友達も少ないし、子ど

もが少ないってことは学校の人数も少ないし友達も少なくなっちゃって、大きくなった時にそういう環境からどんと社会に出ると大変なことになるし、そうかと言って強制的にやるわけにはいかないし…

○高見澤ふみ子委員　そういうことは言っても「うん」って言わないから、今の子どもは。

○大村村長　だけど、俺たちが子どもの頃より今の子どもの方がしっかりしてるし、うちらが子どもの頃はみんなあんな優秀のような顔してなかったよ。野山を駆け巡っていたけど、今はそういうの無いもんね。学力に関しては数段上がっていると思う。あとは、教育長何かありますか。

○井出教育長　ありません。

◎閉会の宣言

○大村村長　それでは、教育委員のみなさんはそれぞれいろいろな形で常にこういう話をしていると思うんですけど、私たちもしっかり把握しましてみなさんの意見を参考にしながらやっていきたいと思えます。今日はどうもありがとうございました。

閉会　午後3時55分